

令和 7 事業年度

財 務 諸 表 (職業能力開発勘定)

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構

自 令和 7 年 4 月 1 日

至 令和 8 年 3 月 31 日

貸借対照表
(令和8年3月31日)

(単位：円)

資産の部

I	流動資産		
	現金及び預金	4,934,518,991	
	未収金	8,362,380,361	
	未収収益	556	
	賞与引当金見返(注)	2,231,061,070	
	災害損失引当金見返(注)	671,930,038	
	棚卸資産	289,508	
	前払金	1,042,578	
	前払費用	27,033,046	
	流動資産合計		16,228,256,148
II	固定資産		
1	有形固定資産		
	建物	73,176,699,836	
	減価償却累計額	△ 31,604,671,764	
	減損損失累計額	△ 65,953,353	41,506,074,719
	構築物	9,514,389,623	
	減価償却累計額	△ 5,272,208,004	4,242,181,619
	機械装置	57,765,451,347	
	減価償却累計額	△ 42,726,466,229	15,038,985,118
	車両運搬具	459,032,425	
	減価償却累計額	△ 388,132,306	70,900,119
	工具器具備品	5,923,520,927	
	減価償却累計額	△ 3,624,249,654	2,299,271,273
	土地	38,306,338,875	38,306,338,875
	建設仮勘定		3,590,505,670
	有形固定資産合計	105,054,257,393	
2	無形固定資産		
	電話加入権		911
	無形固定資産合計		911
3	投資その他の資産		
	敷金	2,227,500	
	退職給付引当金見返(注)	29,911,780,651	
	投資その他の資産合計	29,914,008,151	
	固定資産合計		134,968,266,455
	資産合計		151,196,522,603

(職業能力開発勘定)

貸借対照表

(令和8年3月31日)

(単位：円)

負債の部

I 流動負債

運営費交付金債務 (注)		4,625,052,000
未払金		5,021,703,211
未払費用		33,376,336
未払消費税等		61,513,792
前受金		108,794,904
短期リース債務		2,022,235,844
預り金		271,340,641
引当金		
賞与引当金	2,231,061,070	
災害損失引当金	671,930,038	2,902,991,108

流動負債合計

15,047,007,836

II 固定負債

資産見返負債 (注)		
資産見返運営費交付金	21,522,103,759	
資産見返寄附金	14,747,619	
建設仮勘定見返運営費交付金	869,817,072	
建設仮勘定見返施設費	2,720,688,598	25,127,357,048
長期リース債務		3,454,821,922
引当金		
退職給付引当金	29,911,780,651	29,911,780,651
資産除去債務		101,167,136

固定負債合計

58,595,126,757

負債合計

73,642,134,593

純資産の部

I 資本金

政府出資金	79,581,773,025
地方公共団体出資金	207,580,378

資本金合計

79,789,353,403

II 資本剰余金

資本剰余金	37,260,971,543
その他行政コスト累計額 (注)	△ 42,541,554,772
減価償却相当累計額 (△)	△ 30,724,983,993
減損損失相当累計額 (△)	△ 52,265,663
利息費用相当累計額 (△)	△ 5,844,468
除売却差額相当累計額 (△)	△ 11,758,460,648

資本剰余金合計

△ 5,280,583,229

III 利益剰余金

積立金	2,383,332,074
当期末処分利益	662,285,762
(うち当期総利益 662,285,762)	

利益剰余金合計

3,045,617,836

純資産合計

77,554,388,010

負債純資産合計

151,196,522,603

(注) 独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目

(職業能力開発勘定)

行政コスト計算書
(令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日)

(単位：円)

I	損益計算書上の費用		
	業務費	53,882,201,649	
	一般管理費	4,585,797,638	
	財務費用	121,275,762	
	臨時損失	715,043,301	
	損益計算書上の費用合計		59,304,318,350
II	その他行政コスト		
	減価償却相当額（注）	2,224,952,900	
	利息費用相当額（注）	95,011	
	除売却差額相当額（注）	△ 48,449,661	
	その他行政コスト合計		2,176,598,250
III	行政コスト		61,480,916,600

(注) 独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目

損益計算書

(令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日)

(単位：円)

経常費用		
業務費		
人件費	19,947,643,796	
業務委託費	2,241,820,249	
減価償却費	7,027,347,431	
賞与引当金繰入	2,102,481,680	
退職給付費用	618,211,854	
その他の業務費	<u>21,944,696,639</u>	53,882,201,649
一般管理費		
人件費	1,322,576,808	
減価償却費	144,160,215	
賞与引当金繰入	128,579,390	
退職給付費用	29,735,217	
その他の一般管理費	<u>2,960,746,008</u>	4,585,797,638
財務費用		
支払利息	<u>121,275,762</u>	<u>121,275,762</u>
経常費用合計		<u>58,589,275,049</u>
経常収益		
運営費交付金収益（注）		
運営費交付金収益	47,660,365,212	
資産見返運営費交付金戻入	<u>4,823,991,740</u>	52,484,356,952
補助金等収益（注）		
補助金等収益	<u>156,338,103</u>	156,338,103
業務収益		
職業能力開発収益	<u>3,185,141,318</u>	3,185,141,318
受託収益		
民間団体等受託収入	<u>4,253,500</u>	4,253,500
施設費収益（注）		352,696,014
寄附金収益（注）		
資産見返寄附金戻入	<u>3,177,095</u>	3,177,095
賞与引当金見返に係る収益（注）		2,231,061,070
退職給付引当金見返に係る収益（注）		647,947,071
財務収益		
受取利息	<u>6,782,147</u>	6,782,147
雑益		<u>222,577,070</u>
経常収益合計		<u>59,294,330,340</u>
経常利益		705,055,291

(職業能力開発勘定)

損益計算書

(令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日)

(単位：円)

臨時損失		
固定資産除却損	43,113,263	
災害損失引当金繰入	<u>671,930,038</u>	
臨時損失合計		<u>715,043,301</u>
臨時利益		
災害損失引当金見返に係る収益（注）	671,930,038	
固定資産売却益	<u>343,734</u>	
臨時利益合計		<u>672,273,772</u>
当期純利益		<u>662,285,762</u>
当期総利益		<u><u>662,285,762</u></u>

(注) 独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目

純資産変動計算書

(令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日)

	Ⅰ 資本金			Ⅱ 資本剰余金									Ⅲ 利益剰余金				純資産合計
	政府出資金	地方公共団体出資金	資本金合計	資本剰余金				その他行政コスト累計額				資本剰余金合計	積立金	当期未処分利益		利益剰余金合計	
				施設費	減資差益	国庫納付差額	その他	減価償却相当累計額(△)	減損損失相当累計額(△)	利息費用相当累計額(△)	除売却差額相当累計額(△)			うち当期総利益			
当期首残高	79,581,773.025	207,580,378	79,789,353.403	23,676,340,776	8,525,196.611	△ 256,151,702	384,602,952	△ 28,734,133,709	△ 95,621,559	△ 5,749,457	△ 11,529,451,797	△ 8,034,967,885	1,744,065,033	639,267,041	-	2,383,332,074	74,137,717,592
当期変動額																	
Ⅰ 資本剰余金の当期変動額																	
固定資産の取得				4,930,982,906								4,930,982,906					4,930,982,906
固定資産の除売却								234,102,616	43,355,896		△ 229,008,851	48,449,661					48,449,661
減価償却								△ 2,224,952,900				△ 2,224,952,900					△ 2,224,952,900
時の経過による資産除去債務の調整額										△ 95,011		△ 95,011					△ 95,011
Ⅱ 利益剰余金の当期変動額																	
(1)利益の処分																	
利益処分による積立て													639,267,041	△ 639,267,041		0	0
(2)その他																	
当期純利益														662,285,762	662,285,762	662,285,762	662,285,762
当期変動額合計	0	0	0	4,930,982,906	0	0	0	△ 1,990,850,284	43,355,896	△ 95,011	△ 229,008,851	2,754,384,656	639,267,041	23,018,721	662,285,762	662,285,762	3,416,670,418
当期末残高	79,581,773,025	207,580,378	79,789,353,403	28,607,323,682	8,525,196,611	△ 256,151,702	384,602,952	△ 30,724,983,993	△ 52,265,663	△ 5,844,468	△ 11,758,460,648	△ 5,280,583,229	2,383,332,074	662,285,762	662,285,762	3,045,617,836	77,554,388,010

キャッシュ・フロー計算書

(令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日)

(単位：円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー

業務費及び一般管理費による支出	△ 25,218,182,602
人件費支出	△ 25,033,520,703
その他預り金支出	△ 315,479,569
運営費交付金収入	55,848,954,000
受託収入	4,253,500
補助金等収入	147,365,520
業務収入	3,151,322,835
その他預り金収入	319,498,552
その他業務収入	222,056,782

小計 9,126,268,315

利息の受取額	6,782,108
利息の支払額	△ 120,028,364

業務活動によるキャッシュ・フロー 9,013,022,059

II 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出	△ 11,514,912,116
有形固定資産の売却による収入	209,910,000
敷金及び保証金の差入による支出	△ 462,000
敷金及び保証金の回収による収入	10,904,680
施設費による収入	1,890,810,550
定期預金の預入による支出	△ 4,300,000,000
定期預金の払戻による収入	4,300,000,000
資産除去債務の履行による支出	△ 78,691,560

投資活動によるキャッシュ・フロー △ 9,482,440,446

III 財務活動によるキャッシュ・フロー

ファイナンス・リース債務の返済による支出	△ 2,685,586,690
----------------------	-----------------

財務活動によるキャッシュ・フロー △ 2,685,586,690

IV 資金減少額 △ 3,155,005,077

V 資金期首残高 8,089,524,068

VI 資金期末残高 4,934,518,991

(職業能力開発勘定)

利益の処分に関する書類

(単位：円)

I 当期末処分利益 当期総利益	662,285,762	662,285,762
II 利益処分額 積立金		<u>662,285,762</u>

重要な会計方針

「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（令和3年9月21日改訂）並びに「『独立行政法人会計基準』及び『独立行政法人会計基準注解』に関するQ&A」（令和4年3月最終改訂）（以下「独立行政法人会計基準等」という。）を適用して、財務諸表等を作成しております。

1. 運営費交付金収益の計上基準

業務達成基準を採用しております。

管理部門の活動については、期間進行基準を採用しています。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法は、先入先出法による原価法を採用しております。

3. 減価償却の会計処理方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産の減価償却の方法については、定額法を採用しております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3～50年
構築物	5～60年
機械装置	2～17年
車両運搬具	2～6年
工具器具備品	2～20年

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第87第1項）及び資産除去債務に対応する特定の除去費用等（独立行政法人会計基準第91）に係る減価償却に相当する額については、減価償却相当累計額として資本剰余金から控除して表示しております。

(2) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

4. 貸倒引当金の計上基準

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

5. 賞与に係る引当金の計上基準

役職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。なお、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、賞与引当金と同額を賞与引当金見返として計上しております。

6. 退職給付に係る引当金の計上基準並びに退職給付費用の処理方法

役職員の退職給付に備えるため、当該事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。

過去勤務費用は、その発生時の役職員の平均残存勤務期間による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における役職員の平均残存勤務期間による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

なお、退職一時金並びに確定給付企業年金等に係る掛金及び年金積立金不足額については、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、退職給付引当金と同額を退職給付引当金見返として計上しております。

7. 災害損失に係る引当金の計上基準

「令和6年能登半島地震」により被災した資産の復旧費用等の支出に備えるため、その見積額に基づき計上しております。

8. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金は、手許現金及び随時引き出し可能な預金からなっております。

9. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

10. 重要な収益及び費用の計上基準

当機構の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

① 高度技能者養成訓練等の授業に係る収益

当該収益は、職業能力開発大学校等における高度技能者を養成するための職業訓練の授業に係る収益であり、当機構は、顧客（高校卒業者等）との契約に基づき受講期間にわたり職業訓練の授業を行う履行義務を負っております。当該履行義務は、顧客（高校卒業者等）との契約に基づく受講期間の経過に応じて履行義務が充足されると判断し、当該期間に応じて収益を認識しております。

② 在職者訓練に係る収益

当該収益は、企業の在職者を対象とした職業訓練の提供に係る収益であり、当機構は、受講期間にわたり顧客（訓練受講者）に訓練を提供する履行義務を負っております。当該履行義務は、顧客（訓練受講者）との契約に基づく受講期間の経過に応じて履行義務が充足されると判断し、当該期間に応じて収益を認識しております。

重要な会計上の見積り

退職給付引当金

1. 当事業年度の財務諸表に計上した金額

	当事業年度
退職給付引当金	29,911,780,651円

2. 会計上の見積りの内容について国民その他の利害関係者の理解に資するその他の情報

採用している退職給付制度の概要につきましては、注記事項〔退職給付債務関係〕に記載した内容と同一であります。

退職給付引当金は、退職給付債務に未認識過去勤務費用及び未認識数理計算上の差異を加減した額から年金資産の額を控除して算出しており、退職給付債務は、役職員の退職により見込まれる退職給

(職業能力開発勘定)

付の総額のうち、期末までに発生していると認められる額を割り引いて計算しています。また、退職給付に関連する損益の計算において、年金資産の額に長期期待運用収益率を乗じた期待運用収益の額を考慮しており、実際運用収益との差異は未認識数理計算上の差異として将来に渡って費用処理されます。従って、割引率及び長期期待運用収益率が重要な会計上の見積りに用いた主要な仮定となります。割引率は国債の利回りを参考に決定しており、長期期待運用収益率は、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮し決定しております。

これらの仮定について、将来の不確実な経済条件の変動等により見直しが必要となった場合、翌事業年度の財務諸表において認識する退職給付引当金に影響を与える可能性があります。

注記事項

〔貸借対照表関係〕

- | | |
|-------------------------------------|--------------------|
| 1. 前受金のうち、契約負債に係る金額 | 99,144,800 円 |
| 2. その他行政コスト累計額のうち、出資を財源に取得した資産に係る金額 | △ 28,928,257,244 円 |

〔行政コスト計算書関係〕

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1. 独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト | |
| 行政コスト | 61,480,916,600 円 |
| 自己収入等 | △ 3,417,744,864 円 |
| 機会費用 | 1,838,923,798 円 |

独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	59,902,095,534 円
-------------------------------	------------------

2. 機会費用の計上方法

- (1) 国又は地方公共団体の財産の無償又は減額された使用料による貸借取引から生ずる機会費用の計算方法

都道府県に所在する施設で地方公共団体から借り受けている土地については、法律等から算出した使用料を計上しております。

- (2) 政府出資又は地方公共団体出資等から生ずる機会費用の計算に使用した利率
10 年利付国債の令和 8 年 3 月末利回りを参考に 2.345% で計算しております。

- (3) 国又は地方公共団体との人事交流による出向職員から生ずる機会費用の計算方法

当該職員が国又は地方公共団体に復帰後退職する際に支払われる退職金のうち、独立行政法人での勤務期間に対応する部分について、給与規則に定める退職給付支給基準等を参考に計算しております。

〔損益計算書関係〕

・ファイナンス・リースが損益に与える影響額は、1,858,018 円であり、当該影響額を除いた当期総利益は 660,427,744 円であります。

・業務費 人件費の内訳

給与及び手当	17,014,046,511 円
法定福利費（職員）	2,919,970,028 円
役員報酬	12,045,440 円
法定福利費（役員）	1,581,817 円

(職業能力開発勘定)

・その他の業務費のうち主要な費目及び金額

謝金	6,211,808,036 円
維持管理・保守修繕費	4,469,399,861 円
賃借料	1,975,362,079 円
備品費	1,896,078,445 円
消耗品費	1,894,272,568 円

・一般管理費 人件費の内訳

給与及び手当	1,084,085,489 円
法定福利費（職員）	187,402,982 円
役員報酬	45,374,544 円
法定福利費（役員）	5,713,793 円

・その他の一般管理費のうち主要な費目及び金額

雑役務費	2,019,836,267 円
維持管理・保守修繕費	491,144,192 円
租税公課	127,048,453 円
謝金	110,089,663 円
備品費	107,820,335 円

・雑益のうち主要なもの及び金額

職員宿舍使用料	67,627,892 円
自動販売機等設置手数料	45,842,213 円
その他の雑収入	33,598,022 円
その他の敷地使用料	32,335,121 円
不用品売却代	27,793,440 円

[キャッシュ・フロー計算書関係]

・資金の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金及び預金勘定	4,934,518,991 円
資金期末残高	4,934,518,991 円

・重要な非資金取引

ファイナンス・リースによる資産の取得	3,208,617,332 円
--------------------	-----------------

〔金融商品関係〕

1. 金融商品の状況に関する事項

当機構では、余裕金の運用については独立行政法人通則法第 47 条の規定に定める金融商品に限定しており、株式等は保有していません。

未収金等に係る債務者の信用リスクは、会計規程等に沿ってリスク低減を図っております。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、業務実施に必要な資産の調達を目的としたものがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

令和 8 年 3 月 31 日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、現金は注記を省略しており、預金、未収金、未払金及び預り金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 敷金	2, 227, 500円	2, 180, 108円	△47, 392円
資産 計	2, 227, 500円	2, 180, 108円	△47, 392円
(1) リース債務	(5, 477, 057, 766円)	(5, 467, 109, 218円)	(△9, 948, 548円)
負債 計	(5, 477, 057, 766円)	(5, 467, 109, 218円)	(△9, 948, 548円)

(注) 負債に計上されるものは () で示しております。

(注 1) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の三つのレベルに分類しております。

レベル 1 の時価： 同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル 2 の時価： レベル 1 のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル 3 の時価： 重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

○資産

(1) 敷金

敷金については、差し入れた敷金額を契約における残存期間に対応する国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しており、レベル 2 の時価に分類しております。

○負債

(1) リース債務

短期及び長期のリース債務については、元利金合計額の将来キャッシュ・フローを、信用リスクを反映した割引率で割り引いて算定する方法によっており、レベル 2 の時価に分類しております。

〔資産除去債務関係〕

1. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

石綿障害予防規則（平成 17 年 2 月 24 日公布）に基づく処理義務

当機構が保有している一部の固定資産にはアスベスト（石綿）が使用されており、除去について石綿障害予防規則に基づく処理が義務付けられていることから、当該法的義務に係る資産除去債務を計上しております。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

石綿障害予防規則（平成 17 年 2 月 24 日公布）に基づく処理義務

使用見込期間は、原則として有形固定資産の耐用年数満了時まで（取得時より 7 年から 33 年）としております。資産除去債務の算定に当たり、割引率は 0.847% から 2.303% を適用しております。また、石川職業能力開発短期大学校における災害復旧工事に伴うアスベスト除去について資産除去債務を計上しておりましたが、当事業年度において工事が履行され、アスベストの除去を行っております。

(3) 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

当事業年度における資産除去債務の残高の推移は次のとおりであります。

期首残高	179,763,685 円
有形固定資産の取得に伴う増加額	—
見積りの変更による影響額	—
時の経過による調整額	95,011 円
資産除去債務の履行による減少額	△ 78,691,560 円
当事業年度末残高	101,167,136 円

2. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上していないもの

当機構が職業訓練施設等の設置に伴い締結している一部の不動産賃貸借契約等に基づく原状回復義務については、当該義務に関連する賃借資産の使用期間が明確ではなく、将来移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、履行時期が明らかになったものを除き、当該義務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

〔減損損失関係〕

【減損の兆候に関する事項】

当事業年度における減損の兆候については以下のとおりです。

職員宿舎

1. 兆候の対象資産及び経緯

用途	種類	場所
職員宿舎	土地、建物等	北海道小樽市外 29 箇所

「独立行政法人雇用・能力開発機構法を廃止する法律」（平成 23 年法律第 26 号）に基づき当機構に承継された職員宿舎については、「独立行政法人整理合理化計画」（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）により、すべて構造・耐用年数にかかわらず整理を進め、平成 23 年度末までに独立行政法人雇用・能力開発機構の設立時と比して 4 割を超える施設の廃止を行い、木造宿舎については、最終的に原則廃止とすることとされております。

当該職員宿舍の承継時において、既に独立行政法人雇用・能力開発機構の設立時と比して4割を超える施設の廃止が行われておりますが、当機構では、引き続き当該職員宿舍の着実な整理を進めることとしております。

2. 使用しなくなる日

各宿舍の廃止の時期は、今後整理を進める中で決まっていくこととなります。

3. 使用しなくなる日における帳簿価額、回収可能サービス価額及び減損額の見込額

当該職員宿舍（当事業年度末帳簿価額：土地 3,392,419,343 円、建物等 1,154,798,043 円）については、廃止の時期が個別に決定するまでは回収可能サービス価額及び減損額の見込額を算出することができません。

【減損の認識に関する事項】

当事業年度において、新たに減損を認識した資産はありません。

〔退職給付債務関係〕

1. 採用している退職給付制度の概要

当機構は、役職員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度として、企業年金基金制度及び退職一時金制度を採用しております。企業年金基金制度（積立型制度である。）では、労働関係法人企業年金基金に加入しており、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。退職一時金制度（非積立型制度である。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	29,788,542,921 円
勤務費用	1,183,835,435 円
利息費用	545,068,482 円
数理計算上の差異の当期発生額	641,853,547 円
退職給付の支払額	△ 1,026,266,920 円
期末における退職給付債務	31,133,033,465 円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	9,174,035,976 円
期待運用収益	177,058,894 円
数理計算上の差異の当期発生額	228,552,176 円
事業主からの拠出額	556,280,648 円
退職給付の支払額	△ 569,309,721 円
期末における年金資産	9,566,617,973 円

(職業能力開発勘定)

(3) 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表	
積立型制度の退職給付債務	10,937,134,256 円
年金資産	△ 9,566,617,973 円
積立型制度の未積立退職給付債務	1,370,516,283 円
非積立型制度の未積立退職給付債務	20,195,899,209 円
小 計	21,566,415,492 円
未認識数理計算上の差異	4,329,603,916 円
未認識過去勤務費用	4,015,761,243 円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	29,911,780,651 円
退職給付引当金	29,911,780,651 円
前払年金費用	—
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	29,911,780,651 円

(4) 退職給付に関連する損益

勤務費用	1,183,835,435 円
利息費用	545,068,482 円
期待運用収益	△ 177,058,894 円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	8,259,848 円
過去勤務費用の当期の費用処理額	△ 912,157,800 円
合 計	647,947,071 円

(5) 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです。

債券	28.5%
株式	15.5%
預金	0.3%
その他	55.7%
合 計	100.0%

(6) 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

割引率 1.747%（一時金）

1.975%（年金）

長期期待運用収益率 1.930%

〔収益認識関係〕

当機構は、以下に記載する内容を除き、会計基準第 86 における収益に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(1) 収益の分解情報

当機構の一定の事業等のまとまりごとの区分のうち、会計基準第 86 における収益を生み出す区分は主に職業能力開発業務であり、当該区分における主要な事業は高度技能者養成訓練及び在職者訓練であります。

主要な事業における収益は、1,395,254,450 円、967,197,500 円であります。

(2) 収益を理解するための基礎となる情報

「重要な会計方針」の「収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(3) 当該事業年度及び翌事業年度以降の収益の金額を理解するための情報

当該事業年度末における残存履行義務に配分された取引価格の総額は、99,144,800 円であり、当機構は、当該残存履行義務について、履行義務の充足につれて翌事業年度までの間で収益認識することを見込んでいます。

〔重要な債務負担行為〕

施設整備費補助金により、以下の工事契約を締結しております。

(1) 佐賀職業能力開発促進センター本館・実習場建替その他工事（第 1 期）

契約金額	1,371,700,000 円
当期支払確定額	535,619,000 円
次期以降支払額	836,081,000 円

(2) 北海道職業能力開発大学校学生ホール建替その他工事

契約金額	495,000,000 円
当期支払確定額	198,000,000 円
次期以降支払額	297,000,000 円

(3) 徳島職業能力開発促進センター実習場建替その他工事監理業務

契約金額	33,440,000 円
当期支払確定額	0 円
次期以降支払額	33,440,000 円

(4) 徳島職業能力開発促進センター実習場建替その他工事

契約金額	941,600,000 円
当期支払確定額	188,320,000 円
次期以降支払額	753,280,000 円

(職業能力開発勘定)

(5) 高知障害者職業センター棟等建替その他工事設計業務	
契約金額	6,723,750 円
当期支払確定額	990,000 円
次期以降支払額	5,733,750 円
(6) 松本訓練センター実習場建替その他工事設計業務	
契約金額	85,800,000 円
当期支払確定額	25,740,000 円
次期以降支払額	60,060,000 円
(7) 高度訓練センター中央監視装置更新工事設計監理業務	
契約金額	23,100,000 円
当期支払確定額	13,860,000 円
次期以降支払額	9,240,000 円
(8) 東北職業能力開発大学校教室棟建替その他工事監理業務	
契約金額	34,265,000 円
当期支払確定額	0 円
次期以降支払額	34,265,000 円
(9) 東北職業能力開発大学校教室棟建替その他工事	
契約金額	1,540,000,000 円
当期支払確定額	308,000,000 円
次期以降支払額	1,232,000,000 円
(10) 滋賀職業能力開発短期大学校昇降機設備更新工事設計監理業務	
契約金額	6,820,000 円
当期支払確定額	4,092,000 円
次期以降支払額	2,728,000 円
(11) 滋賀職業能力開発短期大学校昇降機設備更新工事	
契約金額	63,140,000 円
当期支払確定額	0 円
次期以降支払額	63,140,000 円

(職業能力開発勘定)

(12) 石川職業能力開発短期大学校震災復旧その他工事 (第1期)

契約金額	2,081,999,000 円
当期支払確定額	832,800,000 円
次期以降支払額	1,249,199,000 円

上記(1)～(12)合計額

契約金額 計	6,683,587,750 円
当期支払確定額 計	2,107,421,000 円
次期以降支払額 計	4,576,166,750 円

〔令和6年能登半島地震関係〕

「令和6年能登半島地震」により被災した石川職業能力開発短期大学校の建物等の復旧に係る費用相当額として、災害損失引当金を671,930,038円計上しております。

当該計上額は現時点で入手可能な情報に基づき合理的に算出したものであり、今後の状況変化により、実際に必要となる費用の見込額が当該見積額と乖離する可能性があります。

〔重要な後発事象〕

該当する事項はありません。